

2004.4.13

比較現代日本論講読

現代日本論論文講読

東北大学大学院文学研究科
2004年度

田中 重人 (講師)

【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

【予定】

- イントロダクション (4/13)
- 論文検索 (4/20-27)
- 提示資料作成 (5/11-18)
- 各論文の報告 (5/25~7/27)
(1本につき4人で2週間)

論文は、各自の興味にあわせて
受講者が選んだものから

日本語 1 + 英語 3

= 計4本の予定

録画しておいて、
途中で見直す機会をもちます。

【論文の読みかた】

- **Scanning:** 鍵概念 (定義・用例)
- **Skimming:** 構造 (目次)
- 図表
- ロジック (結論—根拠)

【報告の準備】

提示資料 (パソコン、OHP、スライド)

- 全トピックについて**要点**を示す
- 文字は大きく (最低でも 20pt)
- 飾りのない文字 (ゴシックなど)
- 文章をすくなく、図を多く

ハンドアウト (配布資料)

- 提示資料よりも詳しい情報を
- 論文としての体裁を整える
- 日付・授業名・報告者名・所属
を書く

【プレゼンテーション】

- ★ 組み立てをよく考えて、練習する
- ★ 報告用原稿をつくるか、
提示資料のコピーに
メモを書いておく

★ 時間を厳守する

★ 聴衆の反応を見ながら話す

★ 聴く側も報告者の顔を見て
反応を返す

【雑誌論文の種類】

- ★ 雑誌の性質
Peer Review 制の雑誌か？
- ★ 原著論文・研究ノート・調査報告...
- ★ 投稿論文と依頼論文

【Peer review という制度】

投稿された論文を雑誌にのせるか：

- 新しい内容か？
- 有用性はどの程度あるか？
- 内容は正しいか？

→ 専門家による審査 (review)

通常の審査手続き

- ★ 編集委員が審査員をえらぶ (ふつう複数)
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」ならそのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して再提出・再審査

● Peer Review 制雑誌は権威が高い

- 「学術雑誌」の要件のひとつ
- 中間的な雑誌もおおい

● ただし掲載まで時間がかかる。 独創的な論文は載りにくい

【原著論文その他】

★ 原著論文 (ふつうの論文)

★ 研究ノート・調査報告など

原著論文より質は落ちるが、
速報性を要求されるもの

【投稿論文と依頼論文】

- 投稿論文.....
通常の手続きで投稿・審査
- 依頼論文.....
編集委員会の依頼で書く
(テーマのきまった特集論文など)。
審査のある場合とない場合がある。

- この授業では、**peer review** 制
雑誌の**原著投稿論文**を主対象とす
- 最初の1本は日本語論文、
あとは英語論文